





施策評価シート

記載年月	令和6年9月
対象年度	令和5年度

1 施策の目的等

施策名	008	高齢者がいきいきするための支援			
総合計画	基本目標	I	人と人が支え合い 誰もが幸せを感じるまち (保健・福祉)	主担当部課名	福祉保健部 高齢者支援課
	基本施策	03	高齢者サービスの充実		
めざす姿	働く意欲のある高齢者が、自身の知識や経験をいかして地域で活躍しています。また、地域で支え合いや見守りの体制が整備され、高齢者が社会参加しながら、安心感を持って生き生きと暮らしています。				
SDGsとの関連	   				

2 事業費・人件費等の推移

(単位:円、人)

	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度
(事業費)						
当初予算額	1,067,527,000	1,063,176,000	1,114,688,000	1,274,537,000		
国庫支出金	262,180,000	241,189,000	244,369,000	223,853,000		
都支出金	147,751,000	143,478,000	183,481,000	179,059,000		
市債	0	0	0	0		
その他	383,407,000	405,496,000	409,273,000	567,818,000		
一般財源	274,189,000	273,013,000	277,565,000	303,807,000		
予算現額	1,067,527,000	1,089,576,000	1,110,457,000	0		
決算額	951,799,344	1,004,492,211	1,021,134,441	0		
国庫支出金	242,253,791	225,775,826	226,084,960	0		
都支出金	131,605,800	156,050,798	168,979,590	0		
市債	0	0	0	0		
その他	326,001,125	361,220,725	358,645,654	0		
一般財源	251,938,628	261,444,862	267,424,237	0		
執行率	89.2	92.2	92.0	0.0		
(人件費)						
職員数	7.15	7.38	6.38	0.00		
職員人件費	56,018,870	59,598,205	50,876,068	0		
月額制会計年度任用職員数	0.75	0.00	0.00	0.00		
月額制会計年度任用職員人件費	2,436,519	0	0	0		
(間接経費)						
間接経費	9,249,565	945,805	719,442	0		
総コスト	1,019,504,298	1,065,036,221	1,072,729,951	0		

3 指標実績の推移等

指標名	基準値 (単位)	実績の推移				R 7年度 目標値	
		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度		
① 高齢者無料職業紹介等就業支援事業による就職者数	165	実績	191	190	-	-	250
	人	達成率	76.4	76.0	0.0	0.0	
② シニアクラブの加入率	9.9	実績	8.5	8.1	-	-	9.9
	%	達成率	85.9	81.8	0.0	0.0	
③ フレイル予防講習会の参加者数	1,794	実績	2,488	1,957	-	-	4,400
	人	達成率	56.5	44.5	0.0	0.0	
		実績					
		達成率					

指標の分析

外部要因の分析		外部要因を加味した実績の評価	
社会経済動向	5類には移行したものの、コロナ禍において外出や他者との接触を避ける高齢者が増加し、高齢者の社会参加が全体的に減退した影響がまだ残っている。	評価	目標達成に向け順調に進ちよくした
国・都の政策	都は、未来の東京戦略の取組に高齢者の社会参加の一層の促進を挙げると共に、高齢者が「生涯現役」としていきいきと活躍できる社会の実現を目指して、「シニア就業応援プロジェクト」として複数の事業を実施した。		<ul style="list-style-type: none"> 指標①については、今年度も高齢者の就業が厳しい環境にある中、地域密着型の求人開拓を行い、求職者に対して丁寧な対応と適材適所の紹介を行ったが、ほぼ昨年と同じ数値となった。 指標②については、高齢者人口が増加するとともに、シニアクラブの会員数が減少したため、数値が減少した。 指標③については、前年度比は減であるが、基準値と比較して微増であった。
市民ニーズ	就労や社会参加、健康づくりに意欲のある高齢者は大勢いるが、ニーズが多様化しており、従来から行われている活動では要求を満たせず、参加に繋がらない傾向が出てきている。		<ul style="list-style-type: none"> 以上より、概ね順調に進捗したものと評価した。

4 主要な取組(事務事業)の進行管理

事務事業名称	高齢者就労支援事業		主担当部課名	生活環境部 産業振興課				事業種別	主要な事務事業									
次年度における事業の位置づけ									B				1					
指標名	基準値 (単位)	事業推移	R 4年度				R 5年度	R 6年度	R 7年度	計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)							
			R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度					要因の種類(※)							
① 高年齢者無料職業紹介等就業支援事業による新規・再来求職者数	1,577	計画値	1,700	1,850	2,000	2,150	2,150											
	人	実績	1,614	1,852	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
要因の具体的内容																		
② 高年齢者無料職業紹介等就業支援事業による就職者数	165	計画値	186	207	228	250	250											
	人	実績	191	190	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
要因の具体的内容													会員企業へのPR活動の成果。					
事務事業名称	シニアクラブ支援事業		主担当部課名	福祉保健部 高齢者支援課				事業種別	主要な事務事業									
次年度における事業の位置づけ									B				1					
指標名	基準値 (単位)	事業推移	R 4年度				R 5年度	R 6年度	R 7年度	計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)							
			R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度					要因の種類(※)							
① 補助金を交付したシニアクラブの数	83	計画値	83	83	83	83	83											
	団体	実績	82	81	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
要因の具体的内容													活動団体が一つ減ったため計画値を下回ったが、計画どおり全クラブに補助金を交付した。					
		計画値									要因の種類(※)							
			R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度					1	2	3	4	5	6	7	8
		実績									<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度					1	2	3	4	5	6	7	8
要因の具体的内容																		
事務事業名称	介護予防推進センター事業		主担当部課名	福祉保健部 高齢者支援課				事業種別	重点プロジェクト									
次年度における事業の位置づけ									B				1					
指標名	基準値 (単位)	事業推移	R 4年度				R 5年度	R 6年度	R 7年度	計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)							
			R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度					要因の種類(※)							
① 介護予防サポーター育成研修実施回数	72	計画値	75	78	81	84	84											
	回	実績	65	83	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
要因の具体的内容													新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことも影響し、前年度実績を上回るとともに、計画値も上回った。					
		計画値									要因の種類(※)							
			R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度					1	2	3	4	5	6	7	8
		実績									<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度					1	2	3	4	5	6	7	8
要因の具体的内容																		

(※)要因の種類

- 1 概ね計画通り実施した
- 2 市民等のニーズが増加し計画を上回った
- 3 社会経済状況により必要性が高まり計画を上回った
- 4 市民等のニーズが減少し計画を下回った

- 5 社会経済状況により必要性が低下し計画を下回った
- 6 行政サービス供給を阻害する要因があり予定通り実施できなかった
- 7 行政サービス供給体制に課題があり予定通り実施できなかった
- 8 その他

5 施策の評価

	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度
評価	概ね計画通りの成果を上げた	概ね計画通りの成果を上げた		
今年度の主な取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中ではあったが、方法や内容を工夫して介護予防事業を実施し、多くの高齢者の参加を得た。 いきいきワーク府中やシニアクラブの活動を支援し、高齢者の就業や社会参加の機会確保に繋げた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響が残る中ではあったが、方法や内容を工夫して介護予防事業を実施し、多くの高齢者の参加を得た。 いきいきワーク府中やシニアクラブの活動を支援し、高齢者の就業や社会参加の機会確保に繋げた。 		
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の健康寿命の延伸が重要になっていることから、高齢者のいきいきがいつくりや社会参加、心身の健康増進につながる事業を重点的に実施していく。 高齢者の割合が更に増加していくこととなるため、地域で支え合う体制づくりを引き続き推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の健康寿命の延伸が重要になっていることから、高齢者のいきいきがいつくりや社会参加、心身の健康増進につながる事業を重点的に実施していく。 高齢者の割合が更に増加していくこととなるため、地域で支え合う体制づくりを引き続き推進していく。 		
4年間の総合評価				
評価				
実績				
今後の展開				


6 関連計画における位置づけ

協働により推進したい取組		
フレイル予防・介護予防を含めた健康寿命の延伸や、高齢者が集えるサロンの運営に関すること。		
4年間(計画期間中)で協働により推進したい具体的な取組(解決したい課題・着手したい事業等)	今年度の方針	
高齢者の社会参加や健康づくり、地域での支え合いを促進するため、住民主体の通いの場や居場所づくりを一層進める。	①参加者が主体的に運営する介護予防の機会の充実に向けて取り組む。 ②シニアクラブの活動を支援する。 ③住民主体のサロンの立ち上げ及び運営を支援する。	
今年度の取組実績	評価	次年度の方針
①実施方法を見直しながら、参加者が自主的に取り組む介護予防の場(地域交流ひろば)を設けた。 ②高齢者の生きがいつくりや地域での見守りのため、シニアクラブへの財政的支援等を行った(81クラブ)。 ③高齢者の居場所づくりのため、高齢者向けのサロンの活動を財政的に支援した(12団体)。	協働で実施したことにより、何らかの効果を市民に還元できた	住民主体の通いの場や居場所づくりを進めるため、引き続き必要な支援を行うとともに、それ以外の協働の方法について検討をする。

施策評価シート

記載年月	令和6年9月
対象年度	令和5年度

1 施策の目的等

施策名	009 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすための支援		
総合計画	基本目標	I 人と人が支え合い 誰もが幸せを感じるまち (保健・福祉)	主担当部課名 福祉保健部 高齢者支援課
	基本施策	03 高齢者サービスの充実	
めざす姿	認知症の高齢者を始め、支援や見守りを必要とする高齢者とその家族を地域住民、事業者、関係機関等で支え合うネットワークが構築されており、全ての高齢者が安心して暮らしています。		
SDGsとの関連			

2 事業費・人件費等の推移

(単位:円、人)

	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度
(事業費)						
当初予算額	1,434,003,000	1,326,443,000	1,424,999,000	1,397,312,000		
国庫支出金	154,308,000	156,435,000	157,991,000	158,869,000		
都支出金	134,342,000	114,888,000	215,312,000	121,911,000		
市債	0	0	0	0		
その他	325,607,000	263,906,000	266,869,000	261,163,000		
一般財源	819,746,000	791,214,000	784,827,000	855,369,000		
予算現額	1,416,899,000	1,363,511,000	1,450,959,000	0		
決算額	1,356,547,867	1,305,566,006	1,392,098,516	0		
国庫支出金	150,751,773	152,368,433	152,556,344	0		
都支出金	105,808,386	130,214,380	211,902,729	0		
市債	0	0	0	0		
その他	269,455,927	258,589,654	255,289,615	0		
一般財源	830,531,781	764,393,539	772,349,828	0		
執行率	95.7	95.8	95.9	0.0		
(人件費)						
職員数	15.90	21.37	20.31	0.00		
職員人件費	124,573,431	172,631,291	162,046,073	0		
月額制会計年度任用職員数	0.50	0.50	3.50	0.00		
月額制会計年度任用職員人件費	1,624,346	1,618,888	11,286,527	0		
(間接経費)						
間接経費	12,608,268	6,309,869	6,440,542	0		
総コスト	1,495,353,912	1,486,126,054	1,571,871,658	0		

3 指標実績の推移等

指標名	基準値 (単位)	実績の推移				R 7年度 目標値
		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	
① 医療介護連携率 (医療)	66.3	72.2	-	-	-	73
	%	達成率	98.9	0.0	0.0	
② 医療介護連携率 (介護)	65.3	58	-	-	-	73
	%	達成率	79.5	0.0	0.0	
③ 認知症サポーターの養成数	25,405	28,815	31,323	-	-	40,000
	人	達成率	72.0	78.3	0.0	
		実績				
		達成率				

指標の分析

外部要因の分析		外部要因を加味した実績の評価	
社会経済動向	徐々に改善はしてきているものの、コロナ禍において学校での講座開催ができなくなった影響が残っている。	評価	外部要因の影響で遅れが生じた
国・都の政策	国は、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムを構築するため、在宅医療と介護の連携を推進することとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 指標①②については、3年に一度の調査から得られる結果のため、令和5年度は把握はできていない。 指標③については、徐々にコロナ禍の影響が少なくなり養成数は増加しているものの、令和4年度までの遅れにより目標の達成に向けて遅れが生じているため、外部要因の影響で遅れが生じているものと評価した。 	
市民ニーズ	令和4年度において、要介護認定を受けていない、または、要支援認定を受けている高齢者は、医療や介護が必要になっても自宅で生活したいと考える割合が3年前と比較して増加した。		

4 主要な取組(事務事業)の進行管理

事務事業名称	地域包括支援センター事業		主担当部課名	福祉保健部 高齢者支援課			事業種別	重点プロジェクト								
次年度における事業の位置づけ							B	1								
指標名	基準値 (単位)	事業推移	R 4年度				計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)								
			R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度		要因の種類(※)								
① 地域包括支援センター相談受付件数	47,745	計画値	48,000	49,000	50,000	51,000	51,000									
	件	実績	45,800	41,502	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容		相談受付件数(延べ件数)は減少したが、市と包括支援センターで連携を図り必要な相談は実施できたものと捉えている。														
② 地域包括支援センター職種別連絡会実施回数	13	計画値	16	14	14	14	14									
	回	実績	16	15	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容		年度当初の計画どおり実施した。														
事務事業名称	在宅医療・介護連携推進事業		主担当部課名	福祉保健部 高齢者支援課			事業種別	主要な事務事業								
次年度における事業の位置づけ							B	1								
指標名	基準値 (単位)	事業推移	R 4年度				計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)								
			R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度		要因の種類(※)								
① 多職種研修会開催回数	1	計画値	1	1	1	2	2									
	回	実績	1	2	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容		新型コロナウイルス感染症による制限が緩和されたことで、予定どおりに開催することができた。														
		計画値														
		実績						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容																
事務事業名称	認知症対策事業		主担当部課名	福祉保健部 高齢者支援課			事業種別	主要な事務事業								
次年度における事業の位置づけ							B	1								
指標名	基準値 (単位)	事業推移	R 4年度				計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)								
			R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度		要因の種類(※)								
① 認知症サポ-ター-ささえ隊養成講座開催回数	16	計画値	25	35	45	55	55									
	回	実績	48	52	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容		コロナ禍では減少していた小・中学校や市民団体を対象とした開催がある程度できたため、開催回数が増加し、計画値を上回った。														
② 日本版BPSDケアプログラムアドミニストレーター養成成人数	1	計画値	10	20	30	40	40									
	人	実績	20	20	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容		地域包括支援センターや事業所への周知や理解の促進に努めたことで、計画値の人数を養成することができ、計画値通りとなった。														

(※)要因の種類

- 1 概ね計画通り実施した
- 2 市民等のニーズが増加し計画を上回った
- 3 社会経済状況により必要性が高まり計画を上回った
- 4 市民等のニーズが減少し計画を下回った
- 5 社会経済状況により必要性が低下し計画を下回った
- 6 行政サービス供給を阻害する要因があり予定通り実施できなかった
- 7 行政サービス供給体制に課題があり予定通り実施できなかった
- 8 その他

5 施策の評価

	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度
評価	概ね計画通りの成果を上げた	概ね計画通りの成果を上げた		
今年度の主な取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターを核として高齢者への相談・援助を行い、高齢者が地域で生活をするための包括的な支援を行った。 ・多職種研修会の開催等により医療と介護の連携を深めた。 ・認知症の本人・家族への支援、市民の認知症への理解促進に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターを核として高齢者への相談・援助を行い、高齢者が地域で生活をするための包括的な支援を行った。 ・多職種研修会の開催等により医療と介護の連携を深めた。 ・認知症の本人・家族への支援、市民の認知症への理解促進に取り組んだ。 		
今後の展開	支援や見守りが必要な高齢者も地域で安心して暮らすことができるよう、医療、介護、地域、企業等が一体となって高齢者を支えていく地域包括ケアシステムを更に深化させていく。	支援や見守りが必要な高齢者も地域で安心して暮らすことができるよう、医療、介護、地域、企業等が一体となって高齢者を支えていく地域包括ケアシステムを更に深化させていく。		

4年間の総合評価

評価	
実績	
今後の展開	

6 関連計画における位置づけ

協働により推進したい取組		
高齢者の見守りネットワークに関すること。		
4年間(計画期間中)で協働により推進したい具体的な取組(解決したい課題・着手したい事業等)	今年度の方針	
高齢者の異変を早期に察知し、必要な支援を提供できるようにするため、地域での見守りの充実を図る。	①高齢者のさりげない見守りの重要性について、市民への周知、啓発を行う。 ②高齢者の見守りに係る既存の関係団体との連携を深化させるとともに、多様な主体との連携の構築を検討する。	
今年度の取組実績	評価	次年度の方針
①地域包括支援センターが開催する地域の自治会等が参加する会議等の機会を捉え、高齢者見守りネットワークについての周知を行った。 ②「地域の見守り活動に関する協定」の締結団体の中の1団体と連絡会を開催した。	協働で実施したことにより、何らかの効果を市民に還元できた	地域が高齢者をさりげなく見守り、異変を感じたら市や地域包括支援センターへ情報を提供してもらえよう、①②に引き続き取り組む。